

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471001626	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	シニアウイル株式会社			
事業所名	シニアウイルおどりば戸塚			
所在地	(〒245-0061) 神奈川県横浜市戸塚区汲沢8-31-18-19			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果 市町村受理日	平成26年12月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常勤職員、介護福祉士の割合が多く、馴染みの関係が出来ている為、安定した介護力を提供でき、ご利用者様の個々に合わせた介護を行っています。ご利用者様の入居年数が長くなり、重度化が進み、生活面や医療面において快適に過ごせるようご家族との関係を毎月の生活状況でお伝えしたり、何かあれば電話ですぐにお伝えしています。また、ターミナルについてもご家族・協力医療機関と相談しながら、可能な範囲で対応しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成26年9月24日	評価機関 評価決定日	平成26年10月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇利用者は、重度化や認知度が進みADL（日常生活動作）が低下しているが、常勤・非常勤を問わず職員の介護福祉士の割合が6割を超え離職率も低いため、利用者とは馴染みの関係にあり、安心感のある安定した支援体制が築かれている。今後更なるサービスの質の向上を目標に、現在、5名の職員がケアマネージャの資格取得に向けて研鑽している。
 ◇日常生活では、運営理念に基づき利用者一人ひとりその方らしい笑顔と尊厳を大切に、きめ細かな個別対応を心がけている。
 ◇看取りケアに際し職員は、家族に方針を説明して共有し協力医療機関の医師の指導を得てその方に合ったケアを行い、安心して最期を迎えられるよう努めている。昨年からの2年間で数人の看取りを行った実績がある。
 なお入居時、家族には事業所の「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づき説明している。

【事業所が工夫している点】

◇介護計画書に沿ったケアを徹底するため、ケアプランで実施できたサービスのナンバーをケース記録に記載して、利用者の状況を把握しモニタリングに活かしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	シニアウイルおどりば戸塚
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念には、利用者のその方らしい生活が送れるように、尊厳を大切に、生活面において馴染みの地域、行事参加や医療との連携を強めており、職員は常に理念を頭におき心がけ介護に従事している	<ul style="list-style-type: none"> 運営理念は事務室などに掲示するとともに、カンファレンスや内部研修時に理念に基づいたケアが行えているかを確認している。 サービスの質向上のために、今年度は5名の職員がケアマネジャー資格取得に向け研鑽している。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭りや清掃の参加、理髪店の訪問カットを受けている	<ul style="list-style-type: none"> 今年度管理者が自治会の班長として定例会に出席し、清掃や行事の手伝いで地域との関係を深めている。利用者は盆踊りに参加している。 地域の理髪店の申し出を受け、利用者は訪問カットを利用している。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の人に認知症セミナーなどを開催していない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取り組みを行っている	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議は、家族、自治会長、3名の民生委員、地域包括支援センター職員の出席を得て、2か月ごとに開催している。 会議では、状況報告の後参加者から意見や提案を得て、運営に反映している。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム連絡会に参加している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の担当ケースワーカーが、事業所に訪問した折、又、管理者が必要書類を区の窓口まで持参した際に情報交換している。 区のグループホーム連絡会に加入して、研修や意見交換を行っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。身体拘束（虐待防止）の社内研修を行い共有し確認している。	・年1回、全職員に身体拘束防止についての内部研修を実施して、身体拘束をしないケアの理解を深め、実践につなげている。 ・玄関は施錠していないが、2階ユニット出入口は、利用者の安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含めた社内研修を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や訪問された際のご家族の意見を聞き、解決・反映できるよう務めている。	・年2回の家族会、面会時の会話、及び意見箱などにて家族の意見や要望を聞く機会を設けている。 ・毎月事業所から郵送する報告書の「ご家族より、ご意見、ご要望」に返信して貰い、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に時間を設けていないが、運営と経営が分離しないよう、代表者も現場に常駐して、意見を聞けるようにしている	・管理者は、日常的に職員の意見や提案を聞いている。法人代表も事業所に常駐しており、職員の意見を聞くようにしている。また、「気づきシート」を活用して、利用者のケアなどの業務改善に役立てている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価制度を導入している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修も情報を職員に伝え、必要に応じた研修等に参加するように指導し、向上できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入している。連絡会の時の研修会にも参加している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活するにあたり、ご家族や本人の不安を少しでも安らいで頂くよう、要望等を職員でしっかり把握し、共有するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。また、家族の面会・外出・外泊は制限せず、家族との関係作りの継続に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族には生活の基本情報シートに記入していただき、入居前の生活の様子を把握し、問題解決に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と個別に接する時間をたくさん設け、家庭的な関係を構築するように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の生活状況報告を家族に郵送し、感想を送り返して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族からの申し出がない限り、家族以外でも面会は許可している。	<ul style="list-style-type: none"> ・馴染みの場所への外出は基本的には家族にお願いしているが、職員対応の通院時に回り道をして懐かしい場所を通ることもある。 ・同敷地内の小規模多機能型事業所からの入居もあり、職員や利用者との交流を継続している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人の性格や行動を理解し、作業グループ等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、終末期や医療機関への入院が多く、その後も係るケースが少ない。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の今までの生活歴や本人の意思・希望に沿ったプラン作りをしている。意思・希望を伝えにくい場合やよく確認できなければ、言葉や行動から希望を導き出すように努めている	・認知度の低下により、職員は利用者の表情やしぐさから思いや意向を汲み取ってケアにつなげている。 ・新たに把握した情報は、ケース記録にて職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。家族には生活の基本情報シートに記入していただき入居前の生活の様子を把握しプラン作成の問題解に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の性格、年齢、体調、病状等により、集団生活への適応が困難なケースについては各人の生活リズムを保てるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を元に職員がそれぞれに利用者のアセスメントを実施、スタッフ会議にて意見を合わせケアプランを作成している	・本人、家族の希望を聞き、スタッフ会議で検討して、現状に即した介護計画を作成している。 ・実施した計画書のサービス内容のナンバーを介護ケース記録に記載して、モニタリングに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用、生活の様子が時間を追って記入しているその方の表情なども細かく記入するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望にて外出・外泊の支援やご家族の要望にお応えし、マッサージなどを支援している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者様が重度化しており、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、行ける方はできるだけ参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は常に把握しており、訪問診療にも主治医にしっかり伝えている。急変時にも直ぐに対応できるように主治医との連携をとっている。通院時にも家族、スタッフ同行し、医師の指示をきちんと把握し支援している。	・入居前のかかりつけ医への受審を継続している。受診の際は職員も同行し、家族に利用者の状況を伝えている。 ・事業所の協力医とは24時間体制で連絡が可能となっており、急変時にも適切な医療が受けられる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活状況、身体の様子の変化などしっかり観察し訪問看護に報告・相談しながら健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況をしっかり伝える。入院中の治療状況、身体状況を把握し、家族との連携を取りながら早期の退院に向けて支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、主治医と家族が話し合い、ご家族の意向を踏まえて職員も協力し状況の変化にも最適な選択ができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入居時、家族には事業所の「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づき説明している。 ・条件が整い、看取りケアを行う際は医師の指導の下、職員はその方に合ったケアを行っている。2年間で数人の看取りを行った。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や急変時の対応について訓練や研修を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練にも参加している	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の協力を得て、年に2回昼、夜間を想定した避難訓練を行っている。 ・地域の防災訓練に参加して協力関係を築いている。 ・敷地内に新たに倉庫を設置し、備蓄を確保している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、人格を尊重し、それぞれのプライバシーを侵害することがないよう、声掛けに十分配慮している	・職員は入職時に言葉遣いや接遇のあり方を研修で学び、利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。 ・管理者は、職員に不適切な場面があればその都度注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい言葉かけをし、本人の自己決定を促すよう対応している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の主となる時間は、概ね決まっているが、本人のその日の状態に合わせて柔軟に対応している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の意志を尊重している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできることを見極め、盛り付けや下膳、食器拭き等をスタッフと一緒にしている	・利用者は、できる範囲で下膳やテーブル拭きなどを職員と一緒にしている。庭で収穫した旬の野菜が食卓に上ることもある。 ・カレーやシチュー作りでは、利用者も調理の一部を手伝い、職員と共に食事を楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理されているので、季節感のある汁物を提供し、食事量、水分量は必ずチェックをし、体調や嚥下能力に合わせ、硬さや形態の調節をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしていただき、介助が必要な方には、支援をしている。訪問歯科により口腔クリーニングもしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を見ながら、一人ひとりに合わせて声掛けやトイレ誘導を行っている	・排泄チェック表で個人のパターンを把握し、様子を見ながら声掛け誘導してトイレでの排泄を支援している。 ・失敗した場合は、利用者が傷つかないようさりげなく処理し、速やかに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談の上、水分を多めに摂っていただくなど、できるだけ自然に排泄できるように支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、個々の体調や状況に合わせて清潔の保持をしている。	・利用者の状況を確認しながら、週2回以上の入浴を支援している。入浴を好まない方には、無理強いせず言葉かけや時間を変えて対応し、同性介助にも応じている。 ・菖蒲湯やゆず湯で季節感を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごして頂き、夜間によく眠れるように支援している。一人ひとりの状況に応じて、昼間に休んで頂くこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には職員が同席し、利用者の状況を把握し、日々の状況の変化を見逃さないように努めている。用法、用量について疑問がある時は、主治医、薬剤師に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や好きなことを理解し、生き生きと楽しく過ごせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があればできるだけ、近所を散歩している。行事などがあれば参加し、家族の協力をお願いしている	・天候と利用者の体調に応じて近所の散歩や外気浴など、できるだけ外出の機会を設けるよう努めている。 ・桜見物のドライブには、家族の協力を得て、車いすの利用者も一緒に出かけるようにしている。	利用者の重度化が進む中、外出の機会が減る状況にありますが、家族の協力も得るなどして、利用者の気分転換のため短時間でも戸外へ出る工夫が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ、買い物に行っていたが、現在、利用者の重度化が進み自分でお金を所持し買い物する状況ではない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などからの電話は取り次ぎしたり、手紙のやり取りも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく保ち、利用者が混乱しないよう配慮している。壁には季節を感じられるような絵や写真を飾っている	<ul style="list-style-type: none"> ・リビングは明るく清掃が行き届いている。換気や消毒を丁寧に行っているため異臭もない。 ・季節の写真、利用者と職員による富士山の貼り絵などを飾り、季節感を演出している。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く開放的で、窓際にはソファや椅子を置き利用者が個々に過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や装飾品等を持って来て頂いている。配置もその方の状況に合わせて落ち着いて心地よく過ごして頂くようにしている	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れたタンス、テーブルや仏壇などを持ちこみ、家族の写真や花を飾って、自分らしい居室として自由に過ごしている。 ・職員は利用者とは話しながら、居室の掃除や衣類の整理などを行っている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで見守りやすくなっている。安全面にも配慮しただけ自立した生活が継続できるように努めている		

事業所名	シニアウイロおどりば戸塚
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念には、利用者のその方らしい生活が送れるように、尊厳を大切にし、生活面において馴染みの地域、行事参加や医療との連携を強めており、職員は常に理念を頭におき心がけ介護に従事している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域でのお祭りや清掃の参加、理髪店の訪問カットを受けている。今年度は、自治会の班長も努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、地域の人に認知症セミナーなどを開催していない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、実績についての報告や取組みを行っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区のグループホーム連絡会に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを前提にしている。身体拘束（虐待防止）の社内研修を行い共有し確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を含めた社内研修を行い、職員同士が注意し合える環境作りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際には、契約内容等について十分に説明を行っている。また家族の要望や質問についてはきちんと対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や電話連絡の際に会話を通じて、要望を聞くようにしている。また、意見箱を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に時間を設けていないが、運営と経営が分離しないよう、代表者も現場に常駐して、意見を聞けるようにしている。また、気づきシートを使い、スタッフ会議や年1回管理者と面談などで話し合う機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価制度を導入して、各自の意見を聞いて、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や外部研修も情報を職員に伝え、必要に応じた研修等に参加するように指導し、向上できるように努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	高齢者グループホーム連絡会に加入している。連絡会の時の研修会にも参加している		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活するにあたり、ご家族や本人の不安を少しでも安らいで頂くよう、要望等を職員でしっかり把握し、共有するように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。また、家族の面会・外出・外泊は制限せず、家族との関係作りの継続に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族には生活の基本情報シートに記入していただき、入居前の生活の様子を把握し、問題解決に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と個別に接する時間をたくさん設け、家庭的な関係を構築するように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月本人の生活状況報告を家族に郵送し、感想を送り返して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族からの申し出がない限り、家族以外でも面会は許可している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者各人の性格や行動を理解し、作業グループ等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了は、終末期や医療機関への入院が多く、その後も係るケースが少ない。また、退居時にいつでも何かあれば連絡くださるよう伝えていく。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の今までの生活歴や本人の意思・希望に沿ったプラン作りをしている。意思・希望を伝えるに難しい場合やよく確認できなければ、言葉や行動から希望を導き出すように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービスの利用を開始する時点で、本人・家族からの様々な要望を理解している。家族には生活の基本情報シートに記入していただき入居前の生活の様子を把握しプラン作成の問題解に役立っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の性格、年齢、体調、病状等により、集団生活への適応が困難なケースについては各人の生活リズムを保てるよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の資料を元に職員がそれぞれに利用者のアセスメントを実施、その都度、必要になれば、カンファレンスをしてより良く暮らせるようにケアプランの作成をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は独自の様式を使用、生活の様子が時間を追って記入しているその方の表情なども細かく記入するよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日中、3から4人の体制の職員配置し、出来る限りの訴えに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各利用者様が重度化しており、なかなか地域の行事に参加することが難しいが、行ける方はできるだけ参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療に対する家族の意向は常に把握しており、訪問診療にも主治医にしっかり伝えている。急変時にも直ぐに対応できるように主治医との連携をとっている。通院時にも家族、スタッフ同行し、医師の指示をきちんと把握し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活状況、身体の様子の変化などしっかり観察し訪問看護に報告・相談しながら健康管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には生活状況をしっかり伝える。入院中の治療状況、身体状況を把握し、家族との連携を取りながら早期の退院に向けて支援している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、主治医と家族が話し合い、ご家族の意向を踏まえて職員も協力し状況の変化にも最適な選択ができるように支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防への通報訓練や急変時の対応について訓練や研修を行っているが、近所の方に訓練日をお伝えするも参加が得られていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のための最低限の水と食料を確保したり、地域の防災訓練にも参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握し、人格を尊重し、それぞれのプライバシーを侵害することがないように、声掛けに十分配慮している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者にわかりやすい言葉かけをし、本人の自己決定を促すよう対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の主となる時間は、概ね決まっているが、本人のその日の状態に合わせて柔軟に対応している。また、積極的にお手伝いなどに参加していただけるような環境づくりをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択は本人の意志を尊重している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りや食器拭き等、それぞれが出来る範囲で参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは管理されているので、季節感のある汁物を提供し、食事量、水分量は必ずチェックをし、体調や嚥下能力に合わせ、硬さや形態の調節をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに応じた口腔ケアをしていただき、介助が必要な方には、支援をしている。訪問歯科により口腔クリーニングもしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を見ながら、一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師と相談の上、水分を多めに摂っていただくなど、できるだけ自然に排泄できるように支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間帯は決まっているが、個々の体調や状況に合わせて清潔の保持をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動的に過ごして頂き、夜間によく眠れるように支援している。一人ひとりの状況に応じて、昼間に休んで頂くこともある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時には職員が同席し、利用者の状況を把握し、日々の状況の変化を見逃さないように努めている。用法、用量について疑問がある時は、主治医、薬剤師に確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活習慣や好きなことを理解し、生き生きと楽しく過ごせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があればできるだけ、近所を散歩している。行事などがあれば参加し、家族の協力をお願いしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ、買い物に行っていたが、現在、利用者の重度化が進み自分でお金を所持し買い物する機会がない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人などからの電話は取り次ぎしたり、手紙のやり取りも行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は日中も電気を付け、明るく保ち、利用者が混乱しないよう配慮している。壁には季節を感じられるような絵を飾っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は広く開放的で、窓際にはソファや椅子を置き利用者が個々に過ごせるようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具や装飾品等を持って来て頂いている。配置もその方の状況に合わせて落ち着いて心地よく過ごして頂くようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで見守りやすくなっている。安全面にも配慮しできるだけ自立した生活が継続できるように努めている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 シニアウイルおどりば戸塚

作成日 平成26年10月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	利用者の重度化が進む中、外出の機会が減る状況にある。利用者の気分転換のため、短時間でも戸外へ出る工夫が必要	1日1回、天気の良い日には、外気浴を行う	天候を見て晴れている日は、1日1回、外気浴を行う。重度化しているので、一人ずつ個別に外気浴に行くようにする。また、家族にも協力を得るように面会時においてお願いしてみる。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					